

市長総括説明から

3月2日、平成21年第2回市議会定例会が開会し、市長が新豊岡市の歩みを振り返り、市が目指すべき方向を述べた後、新年度予算をはじめとする提出議案の説明をしました。その概要をお知らせします。

《市が目指すべき方向》

①地域固有の自然、歴史、伝統、文化に根ざしたまち

歴史・伝統を尊重し、工夫を加えて引き継いでいくことは、穏やかさと落ち着きに満ちたまちづくりであり、激しい都市間競争を生き抜くまちづくりの戦略です。

②環境都市の統合モデル

本市は、生きものとの共生では存在感を発揮していますので、今後さまざまな環境分野で最先端を行く環境都市を目指します。

③小さな世界都市

地域固有の資源に根ざした環境統合モデル都市を実現し、人口規模は小さくても世界の

人々に尊敬され、市民が誇りを持てるまちを創ります。

《主な施策等》

■安全に安心して暮らせるまち

稲葉川土地区画整理事業や

学校の耐震補強工事等を行い、防災・減災力の向上に努め、消防・救急体制、消費生活相談体制の充実を図り、新型インフルエンザ対策を進めます。また、すこやか市民ドックなど生活習慣病予防や健康づくりを推進し、母子保健事業の拡充、高齢者や障害者の自立と社会参加を支援し、介護保険の円滑な運営に努めます。

■人と自然が共生するまち

コウノトリ生息地保全事業を進め、ハチゴロウの戸島湿地を核とした円山川下流域等のエリアのラムサール条約登録を目指し、産学連携、環境経済型事業への補助などの環境経済戦略を推進します。

また、ペレットストーブの公共施設への整備、菜の花プロジェクト等バイオマスタウン事業、地球温暖化対策、ごみの減量などを推進します。

■持続可能な「力」を高めるまち

農林水産業、商業、サービス業等産業全般にわたる振興策を再構築し、経済成長戦略を検討するなど、地域経済の活性化に努め、兵庫県大型観光交流キャンペーンに合わせ誘客促進を図ります。

また、住環境や道路網、JR豊岡駅前の広場整備、市営バス「イナカー」など公共交通の確保・充実に努め、地域情報化も推進します。

■未来を拓く人を育むまち

コウノトリ子育て支援メッセージ事業の推進など総合的な子育て支援や少子化対策を進め、子育てセンター、放課後児童クラブを整備します。

校園庭の芝生化など教育環境整備にも取り組み、幼稚園・保育所のあり方についての計画を策定します。

また、心豊かな人材育成のため、小中学生を中心とした訪問団の海外派遣や受入事業を継続します。

■人生を楽しむ お互いを支え合うまち

豊かな自然の中で、歴史・伝統や香り高い優れた芸術・文化に触れ、日々の暮らしを楽しむるまちづくりを進め、

今年も歌舞伎公演を行います。

また、資母地区公民館、竹野地区公民館の整備など生涯学習・交流の拠点づくりを進め、最も身近なコミニティである集落機能の活性化を図り、市民のふれあいや、スポーツ・レクリエーションに親しめる環境づくりを進めます。

■市政の運営

豊岡地域では、玄武洞公園の整備、総合健康ゾーン推進事業等を実施し、コウノトリの野生復帰などの取り組みを国内外に情報発信します。また、豊岡かばんの地域ブランドの確立への取り組みや空き店舗での販売を支援します。

城崎地域では、城崎温泉と市内各地の観光拠点を有機的に連携させ、多彩な周遊ルート形成で滞在型観光を推進するとともに、ハチゴロウの戸島湿地の活用により城崎の観光の魅力アップを図ります。

竹野地域では、海・川・山を活かしたツーリズムにより、参加体験型・滞在型の観光を進め、「たけのスタイル」の確立や「ウエルカム真夏のファンタジー」を支援します。また、竹野北前館の改修を進め

ます。

日高地域では、四季を通じたスポーツのメッカ・観光スポットとして振興を図り、春秋・冬のウォークイベントに加え、神鍋ノルディックウォークを支援します。冒険家植村直己の功績も顕彰します。

出石地域では、出石永楽館などによりまちづくりの活性化を図り、重要伝統的建造物群保存地区の保存事業を進めます。また、日本で唯一栽培されている酒米フクノハナによる農業活性化を促進し、図書館出石分館を整備します。

但東地域では、シルク温泉「やまびこ」とたんたん温泉「福寿の湯」を活用するとともに、農業体験ができる農家民宿、チューリップまつりなどの交流イベントやグリーンツーリズムなどにより、交流人の増加を図ります。

《主要項目》

○円山川緊急治水対策事業

河道掘削、堤防強化、無堤地解消や鳥居橋架替工事は平成22年3月の完成予定で、八代排水機場整備、KTR円山川橋梁架替工事は平成23年3月の完成を目指しています。

○救急体制の整備

装備の刷新を図り、救急救命士、認定救急救命士を計画的に養成します。

○総合健康ゾーン

整備運営事業

新設の健康増進施設造成工事は4月着手予定で、建築工事は6月着手見込みです。改修する健康福祉施設の運営については、検討中です。

○豊岡市老人福祉計画・第4期介護保険事業計画の策定

平成21年度から23年度を計画期間としています。65歳以上の方の保険料は改定の予定でです。

○第2次霊園整備事業

全体面積の約9割の用地の仮契約を締結し、供用開始は平成23年9月をめどにしています。

○コウノトリの野生復帰

ハチゴロウの戸島湿地は、4月2日オープンの予定です。

また、コウノトリ基金を活用して、ビオトープ水田の設置管理に取り組みます。

○広域ごみ・汚泥処理施設

整備

北但行政事務組合では、現在生活環境影響調査や敷地造

成基本設計等が進められています。新年度には、一部の用地買収が予定されています。

○市役所自身の地球温暖化防止対策

市役所の二酸化炭素の排出量を平成19年度に対して、平成25年度までに8・8パーセント削減を目標としています。○バイオマスタウン推進事業 栽培しているナタネは、学校給食の天ぷら油として使用し、使用済み油は車や農業用機械の燃料として使用します。

○山陰海岸ジオパーク

昨年12月8日、山陰海岸が「日本ジオパーク」に認定されました。山陰海岸ジオパーク推進協議会と連携して、さらに世界ジオパークへの認定を目指します。

○兵庫県大型観光交流

4月から本番を迎え、「コンナニミステリーツアー」も始まります。多種多様な観光素材を活かし、再び訪れたい観光

○緊急雇用対策

1年以上の安定的な雇用機会の創出を図るふるさと雇用再生基金事業と6カ月未満の就業の機会提供を図る緊急雇用就業機会創出基金事業を行います。46人の雇用を見込みます。

○生活道路排水路等整備

当面、平成23年度までを想定し、区が維持管理する生活道路、生活排水路等を整備します。

○校庭の芝生化

子どもの外遊び増による心身の発育向上、環境の改善効果などを期待し、校庭芝生化モデル事業を始めます。

○米の海外販路開拓と学校給食

「コウノトリ育むお米」などの評価向上と海外輸出を図ります。本市農業の活性化を図ります。また、学校給食は現在週4日米飯から週5日とも地元産米飯とします。「コウノトリ育むお米」の使用も増やし、コウノトリの生息環境の拡大につなげます。

○情報発信

豊岡を知ってもらうことが大切です。モデル事業として「コウノトリ」および「企業誘致」における情報発信戦略を検討します。

○行政改革

現在進めている計画は、平成21年度までの計画です。そこで、次の計画として、平成22年度から25年度の第2次行政改革大綱と実施計画を策定します。

○経済成長戦略策定

策定検討委員会を設置し、戦略の方向性と重点的に取り組む戦略プロジェクトを11月末をめどに策定します。

○新庁舎建設

昨年12月に新庁舎建設基本構想を策定し、建設位置を現在地と決定しました。3月中旬に基本計画を策定する予定です。現本庁舎については、活用の方策を探ります。

○簡易水道事業の法適化等

4月から簡易水道事業に地

○組織の見直し

市の商工観光部を経済部に

名称変更して経済振興課を設置し、地籍調査推進室を地籍調査課へ、子ども企画室を子ども企画課へ変更するなどの組織改正を行います。

方公営企業法を適用します。また、簡易水道と上水道を一つの会計で経営し、一層の経営健全化、効率化を図ります。

○竹野北前館の改修

海エリアの観光振興および地域活性化の拠点施設を目指し、7月にはリニューアルオープンする予定です。

○道の駅「神鍋高原」周辺施設あり方の検討

道の駅「神鍋高原」周辺施設あり方検討委員会から答申を受け、改修の準備を進めています。農林漁業体験実習館は、引き続き(株)日高振興公社を指定管理者とする議案を今議会に提出しています。

○競輪訴訟

長年争われてきた競輪訴訟は、すべて被告市(本市を含む20市)側が勝訴しました。

○生活支援定額給付金等の給付

3月2日、じばさん但馬内に「豊岡市定額給付金・子育て応援特別手当実施本部」を設置しました。近日中に各世帯に給付申請書を送付し、26日には第1回給付金などを振り込む予定です。

※市ホームページに「市長総括説明」の全文を掲載しています。